

## 南一条地区第1回再開発勉強会記録

日 時 平成26年10月21日13:30～14:50  
場 所 松崎ビル2階会議室（札幌市中央区南1条西1丁目）  
進行役 大坪禎宏（南一条地区開発事業推進協議会運営委員会 副委員長）  
参加者数 権利者21名、関係者16名、総計37名

### ■進行役

- ・南一条地区開発事業推進協議会・役員紹介（森吉会長、吉田副会長、池内副会長、齋藤副会長）
- ・勉強会担当・（一社）北海道まちづくり協議会紹介（大石会長、大場常務理事、森顧問）

### ■森吉会長挨拶

- ・当推進協議会は平成11年に活性化をめざし発足した。
- ・岩井初代会長及び齋藤第2代会長の「この一番街を世界一の商店街にしたい」という思いから、現在まで脈々と活動を続けてきた。設立当初から基本目標として「地下歩行空間の整備」、「地上の広場化」を掲げ、検討を続けてきている。

### ■札幌市市民まちづくり局都心まちづくり推進室都心まちづくり課 奥村課長挨拶

- ・推進協議会とは、地区のまちづくりについて、ともに議論・協議を重ねてきている。
- ・昨年、協議会では南一条地区のグランドデザイン案をとりまとめられ、現在はさらにブラッシュアップしていると承知している。
- ・南一条地区については、札幌市としても、今年度中に公共整備の事業化についての判断をすることを考えている。判断に当たっては、皆様方の当地区をどのようなまちづくりにしていけばいいのかというお考えについて、グランドデザイン案を含めて検討していく。事業化を判断する際の一つの大きな要因となるのは、地区のまちづくりへの行政投資をするにあわせて、民間側の開発がどれだけ旺盛になっていくのか、行政投資に見合う、あるいはそれ以上の経済効果が波及していくのか、ということである。
- ・本勉強会は、皆様方が南一条地区をどのようなまちにしていきたいのか、それに伴う民間開発のきっかけとなる会であると理解しており、札幌市としても期待している。

### ■一般社団法人北海道まちづくり協議会大石会長挨拶

- ・3月まで当協議会で本活動のお手伝いをする。受託業務は次の2点である。
  - ①今までの活動成果、将来デザイン・ビジョンを南一条地区の関係者の皆様が共有し、広く市民に伝えていくための仕組みづくり

②まちの将来デザイン実現に向けて民間が担うことのための情報提供

- ・①については協議会のホームページを立てあげており、今後、活動状況や勉強会内容の報告を行う。
- ・②については、本日を含め3回の勉強会開催を予定している。また、個々の皆様の開発に関する相談の受付も行っていく。

## 【勉強会第1部】

### ■説明（（一社）北海道まちづくり協議会大場常務理事）

- ・南一条地区まちづくりの検討経緯について
- ・南一条地区まちづくりの目指すもの

### ■質疑応答

- ・質問：説明に「路面電車の延伸」とあったが、どのような形を目指しているのか説明いただきたい。
- ・回答：説明は、年代を追って札幌市に提出を行ったものであり、重複している。路面電車の延伸は、以前は提案を行ったが、現在の札幌市の考え方としては「今のところない」ということから、協議会では広場化ということで近年変更を加えている。協議会では路面電車の延伸要望は根底にはあるものの現段階においては難しいと判断し、回遊ということで“すすきの、南一条地区、駅前通”をつなげていくということで変更している。

### ■進行役

- ・現在大通地区では「大通地区再生研究会」という組織において、まちづくりの取り組みを進めている。研究会は、札幌市、大通まちづくり会社、商店街役員がメンバーとなり、大通地区のめざす将来像を議論している。当協議会においても、齋藤副会長が参画しており、齋藤副会長より検討内容等について説明をいただく。

### ■齋藤副会長

- ・研究会の全体会は約20名の理事長、理事、若手で協議している。今年で3年目であり、本年は8月よりはじめている。
- ・研究会は、平成27年以降の「新都心まちづくり計画」の策定に向け、その素案づくりの活動の一環として協議している。
- ・研究会では一番街のメンバー3名が、推進協議会で協議している地上の広場化やモニュメント設置等の議題を出し協議いただいている。

- ・地下整備については、協議会としては全面25mを地下歩行空間としたい意向であるが（冬場の大通公園の実現）、ハードルは高い。研究会では昨年、歩道の地下部だけを掘り隣接する建物を地下で結ぶH型の提案もあり、協議会の中では、このまま整備が進まないより一つの突破口としてそのような考え方もあるものと考えている。駅前通地下歩行空間の通行量は8万人ほどあり、札幌市にとって地下歩行空間は市民、観光客のためにも必要なものとして皆様実感しているものと思う。一番街の地下にもどのような形でネットワークを構築するように、地区再生研究会でも積極的に発案していく。

#### ■進行役

- ・大通地区再生研究会では、我々南一条地区・一番街で考えていることを計画の中に反映していくよう取り組んでいく。取り組みの進捗状況は勉強会や別の機会・手段を通じて皆様にお知らせしていく。

### 【勉強会第2部】

#### ■説明（（一社）北海道まちづくり協議会大石会長）

- ・ビジョンから計画実現へのアプローチ
- ・耐震改修促進法の改正
- ・再開発の取り組み
  - －合意形成というものが沿道開発のためには最も必要である。
  - －次回の勉強会では、再開発事業や補助事業制度の概要をテーマに行う。

#### ■質疑応答

- ・質問：耐震診断の結果報告は平成27年12月31日までとあるが、結果公表する期日は定められているのか。
- ・回答：平成27年度内に公表する予定となっている。

#### ■進行役

- ・最近、当協議会のウェブサイトを開設した。本勉強会の内容はこのウェブサイトにも次週以降1週間から10日後程度をめどに掲載していく。あらためて内容を確認いただき、質問等があればサイトでも受けることができる。
- ・第2回勉強会は、再開発事業と補助制度という内容で12月2日（火）、本日より同時時間の13：30より開催予定である。皆様にはあらためて案内状を郵送する。

－閉 会－

以上